

いずみのひろば

神の小羊

ヨハネによる福音書1章29節

ヨハネさんのところにイエスさまが近づいてこられたときのことです。イエスさまをみてヨハネさんは言いました「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」

ヨハネさんはイエスさまのことを「神の小羊」と呼びました。でも、なぜ小羊と呼んだのでしょうか？

実はヨハネさんがイエスさまを神の小羊と呼んだのには訳があるのです。むかし旧約聖書の時代、イスラエルという国の人々はエジプトという国の奴隷になっていました。エジプトという国はピラミッドやスフィンクスで有名ですから知っている人もいかな。イスラエルの人たちはこのエジプトで奴隷として働かされていたのです。そこで神さまはモーセという人を選んで、イスラエルの人たちをエジプトから助け出そうとされました。モーセは何度も何度もエジプトから出ていこうとしましたけれども、エジプトの王様はなかなか行かせてくれませんでした。それで最後に神さまは言われました。「家族に一匹小羊を用意してそれを屠り、その血を取って、家の入り口の二本の柱と鴨居に塗りなさい。夜になったら、わたしはエジプトの国を巡り、人間も家畜も、エジプトの国のすべての最初の子どもを撃つ。家に塗った小羊の血があなたたちのしるしとなる。血を見たら、わたしはあなたたちを通り過ぎる。」

イスラエルの人たちは神さまが言われたとおりに、小羊を殺してその血を家の柱や鴨居に塗りました。小羊の血を塗って

いないエジプト人の家では神さまが言われたとおりになされたので、子どもたちが死んでしまいました。それでエジプトの王様はどうとうイスラエルの人たちがエジプトから出ていくのを許してくれたのです。こういうお話があったのです。

かわいい小羊が殺されてしまったかわいそうですね。でも小羊の血がなければイスラエルの人たちはエジプトから助かることができませんでした。小羊はエジプトで奴隷になっていたイスラエルの人たちを助け出すための犠牲になったのです。

さて、小羊と同じように、イエスさまも十字架の上で血を流されました。イエスさまは何も悪いことをしていないのに十字架に磔にされてしまいました。でも、イエスさまが血を流してくださらないければ、わたしたちは助かることができなかったのです。イスラエルの人たちが小羊の血によってエジプトから救い出されたように、わたしたちはイエスさまの十字架の出来事によって救い出されたのです。神さまは大切な独り子であるイエスさまを十字架につけるためにこの世にお遣わしく下さいました。それは、わたしたちが助かるためです。神さまはそれほどまでに私たちを愛してくださっているのです。



(おはなし 油谷 和重先生)